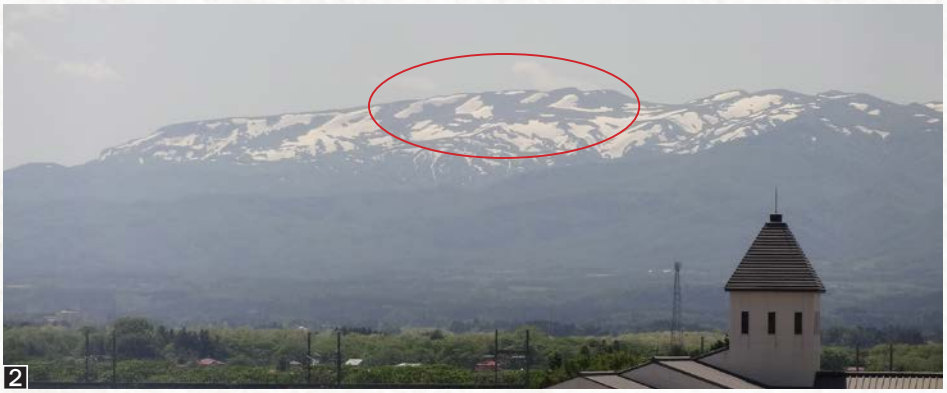
広報おうしゅう
Vol. 183
■発行日／令和3年5月13日 ■発行／奥州市 〒023-8501 奥州市水沢大手町一丁目一 ■電話／0197-24-2111 ■印刷／川嶋印刷㈱



「ハル」の雪形。この「ハル」という文字、みなさんは右から読みますか？左から読みますか？

1 平成11年5月22日撮影（胆沢若柳より）

2 令和元年5月30日撮影（江刺総合支所より）

奥州遺産

―ときを越え 受け継がれるもの―

第128回

胆沢平野に春を告げる雪形

＝胆沢若柳＝

胆沢扇状地の西方にそびえる焼石連峰。千メートル級の高峰が連なり、冬になると厚い雪に覆われる山々も、木々が緑を増すゴールデンウイークを迎えるころには、だいぶ雪解けが進む。

雪解けが進んだ山々の山腹には、残雪と岩肌が作り出す「雪形（ゆきがた）」と呼ばれる造形が現れる。

焼石連峰・横岳の山腹には、4月下旬になるとカタカナの「ハル」という雪形が現れ始める。新聞に取り上げられることもあるので、ご存知の方も多いだろう。ほかにも、獅子ヶ鼻岳の亀形やモッコに苗束、経塚山の駒（牛）形などがあり、先人たちの観察眼や想像力の豊かさには目を見張るものがある。

雪解けに伴って現れる雪形は、かつては農作業を始める際の目安ともなった。

焼石の山腹に「ハル」が現れるころ、胆沢平野では田植えの最盛期を迎える。

広　告

◎広告の問い合わせは、㈱東広社（☎0197-64-1523）